



ボランティアニュース

213号 2021年7.8月合体号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦與

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

はじめてこども医療センターを訪れた日のこと

副院長 石川浩史

いつもボランティアの皆様にはたいへんお世話になっております。季節ごとのさまざまな飾り付けを楽しみにしています。

この原稿執筆時点では待合ロビーや渡り廊下に七夕飾りが飾られています。数少ない患者参加型の飾り付けではないかと思えます。たくさんの短冊に願い事が書き込まれて吊されます。かつては本物の笹の木だったのが、あまりにも大量の短冊が吊されるために垂れ下がってしまうせいか、笹の木と緑色のネットを巧みに組み合わせて荷重対策がなされたように記憶しています。「早くお家に帰りたい」「〇〇ちゃんが歩けるようになりますように」など、こども医療センターに通うお子さんやご家族の皆様の切実な願いごとが込められています(たまに『ニンテンドースイッチが欲しい』という、それはクリスマスにねとツッコみたくなる願いごともありますが)。

そんな願いごとの短冊の1枚1枚を見ていると、二十数年前、患者家族として最初にこども医療センターを受診した日のことを思い出します。当時、わが子は産まれて数ヶ月でした。旧本館の新患受付で手続きをして、長い廊下を歩いて内科外来(現在の事務局の場所にありました)の待合室で待っていた時間、不安で押しつぶされそうになりながら、ただただこの子の成長だけを願っていました。その後、2回の入院と手術を経験しました。

幸いにして、この病院でなければ出会えなかった専門医の先生方の適確な診療と、外来・病棟の看護師さんたちの暖かい看護のおかげで、低出生体重児だったわが子もすくすくと育ち、いまでは社会人として元気に働いています。たまに飲みに行くと(最近は行けませんが)私よりも飲んで平気な顔をしています。この病院に患者家族として通院して良かった、と心の底から思う瞬間です。



いま、受診されるお子さんと親御さんたちを迎えるのは、旧本館とはまったく異なる明るい受付ホール、ボランティアの皆様の季節ごとの飾り付けです。このような明るく暖かい雰囲気は、お子さんや親御さんの不安をどれだけ軽減することでしょう。また正面玄関を通った瞬間のボランティアの皆様の「こんにちは～」という明るいかけ声は、どれだけの安心をもたらすことでしょう。

初めて患者家族としてこども医療センターを訪れた日の不安な気持ちは、いまでも忘れることはありませんが、同じような患者家族のみなさんの不安を少なく、願い事がかなうように、ボランティアの皆様とともに働いてゆきたいと思えます。

最後に自己紹介です。この4月から副院長に就任しました。産婦人科医です。こども医療センターでは数少ない、大人を診る医師（ただし女性限定）です。お産が好きで、とくに産まれた赤ちゃんが「おぎゃあ」と泣く瞬間が大好きです。こども医療センターには1996年に入職し、途中大学病院での勤務を挟んで通算17年ほど働いております。よろしくお願ひします。

夏飾り

季節飾りグループリーダー 林 美恵子

昨年夏のある日に外来で活動をしていると、「夏は飾りがなくて寂しいのよね」と麻衣ちゃんに語りかけたママは私の方に顔を向けられました。私も感じていたことですが、言葉にしてくださった初めての方です。

ひょっとしたらほかの方も感じられているかもしれない、何か提案しても良いのではないかと思ひ、ボランティア調整会議で夏飾りアイデアをお寄せくださいと会員の皆さんにお願いしました。長引くコロナ禍で気持ちも晴れず、どこにも出かけられないという状況を少しでも明るく変えられるのは黄色いヒマワリではと思ひ、ネットで“手作りヒマワリ”を検索すると、折り紙で作るものから、私にもできそうな布のヒマワリがありました。ホールが黄色でいっぱいになることを想像し、同時にかわいい夏の海・魚たちのイラストにも心惹かれました。

最初にボランティア室のテーブルの上にヒマワリの試作品と、作り方を置き、みなさん作ってくださいと呼びかけました。ボランティアコーディネーターの加藤さんには生地提案からチラシの設置までお世話頂き、保育士さんにはキットの作成をして頂きました。また加藤さんは活動ができる日を心待ちにしている自宅待機中の会員にキットを郵送して下さいました。

時をそれほど経ずに、ヒマワリをご覧になった会員の皆様から次々と作りたいという声がかコーディネーターに届き、活動グループの垣根を超え、作れる！作ってみたいという方々からいろいろなヒマワリが集まり始めました。何て才能豊かな方々の集まりなのでしょう、思い思いのヒマワリです。一人で3、40個作らなくては飾る形にならないと必死に作り始めたのですが、心配は無用でした。

また、2階廊下の手すりのアクリル板を水族館に見立てて魚を泳がせたい、2階の外来で待ち時間のあるこどもたちや、教室から体育館へ移動する生徒さんたちが楽しめたらと夢は膨らみました。集まり始めた魚たちには創意工夫あり、独創性あり、見本に忠実なものありと楽しくなりました。図書館で魚図鑑を借りてきて、ひらめを作ってくださいる会員、ご主人が魚のうろこ一枚一枚を糸と針で縫い付ける作業をしてくださったというエピソードもありました。会員とご家族が作ることを楽しんでくださっているのが感じられ嬉しくなりました。

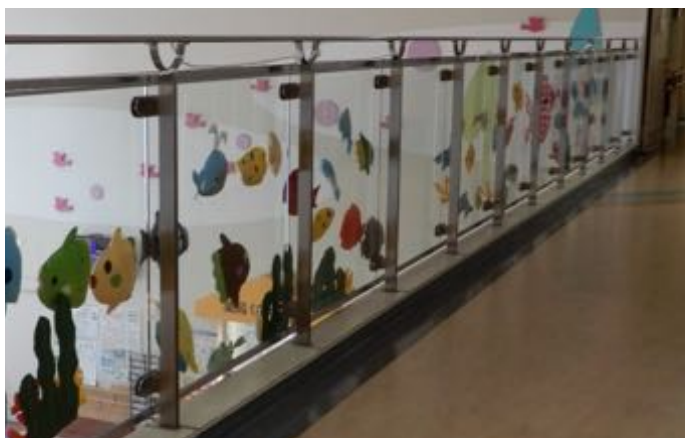
さてこれからが大変、長年の季節飾りで飾り方の基本はわかっているのですが、より美しく可愛らしく素敵に飾るにはセンスが必要です。それで次の調整会議で手芸グループリーダー谷内さんにアドバイスをお願いしました。そうしたら、あれよあれよという間にホールがヒマワリに覆われるのが目に浮かぶようになりました。

作品を見て頂くとお気づきになられると思ひますが、ヒマワリに囲まれた時計や動物たちがいま

す。発想は谷内さんだと思いますが、実はご主人の力もかなりあるようです。そして手芸グループメンバーの皆さんのチーム力が素晴らしいです。

その病院が患者に寄り添う温かいところかどうかは正面玄関に入ってすぐに感じられるとよく言われます。これまでのセンターのようにこれからもそうでありたいとの思いは、オレンジクラブ会員の底力とご家族のご理解があれば実現可能と確信しています。夏飾りは7月17日からです。

麻衣ちゃん ヒマワリや魚たちはどうですか？ 気に入ってくれるかな？



オレンジクラブ園芸班のグループリーダーご挨拶 (園芸班の活動 その他) <<後編>>

園芸班グループ新リーダー 石井康博

<園芸班の活動について>

園芸班は現在 17 名の登録メンバーで活動をしています。女性と男性の比率は約 3 : 1、お花の植え付けセンスは女性メンバー、力仕事関係は男性メンバーの総力で活動しています。

活動日は、当初月 2 回(第 2、第 4 火曜日の 10 : 00~15 : 00)でした。現在は「新型コロナ対応」を考慮し、「医療センター」と「オレンジクラブ」のご配慮により、昨年 6 月中旬から三密を避ける活動スケジュールに変更しています。

1. 活動日：第 2 火曜日、第 4 火曜日、自由活動日としてその他の火曜日
(活動中の接触を避けるため、時間は 9 : 00~14 : 00 位、なるべく午前中に切り上げる)
2. 6F 屋上の庭、重症心身障害児施設「ひだまり」の庭、玄関前花壇(数年前から実施) の 3 か所
3. 主な作業は、①雑草を含めた草取りと整備 ②お花の植え付けと手入れ、水遣り ③生垣等の剪定 ④出来る範囲での立木枝の伐採 ⑤重心庭の芝刈り ⑥施肥、土壌の手入れ 等々
4. 植栽について
季節により、バラ、マリーゴールド、ペチュニア、ベコニア、パンジー、チェーリップ、ユリ 等など。メンバーの意見、お花市場の状況等を考え入手しています。
5. 新型コロナ対応及び健康管理について・・・自己管理：三密を避け、健康管理に留意する。
①上記のように、入館時間をフリーにしてあり、9 : 00~三々五々入館をする。
②医療センター内の移動は動線を限定し、マスクを着用する。
③各自作業は、密にならない様離れて行う。暑さ対策と湿度対策のため、マスクは適宜外して健康に留意をする。水分の補給と休憩を小まめに行う。

屋上からは、天候によりますが富士山も見えます。(秋から冬は絶景) 生垣等を低めに剪定し、なるべく見晴らしが良くなるよう、少しずつ手入れを始めています。

重心棟の庭は、患児の皆さんが屋外での癒しが出来る様、風通しも考えスペース作りを 2 年がかりで行っています。芝刈りは様子を見ながら、頻りに手入れをしています。

玄関の花壇部は、外来グループの水遣りサポートもいただき、病院の顔として手入れをする様にしています。皆様お時間のある時に、屋外の空気と見晴らしの鑑賞 等如何でしょうか。

<園芸班のボランティア活動に参加して>

私のボランティア活動は、40 歳代から違うジャンルで 3 回ほど経験があります。

園芸班を含めオレンジクラブでは、色々な人生経験を積んでこられた皆様と接触する機会ができ、勉強になります。園芸班での活動は、患児の皆さん、ご家族の方、医療職を含めた職員の方 とは直接の接点は少ないですが、影のサポーターとして役割も大切と感じ、自分としては満足しています。まったく知識と経験のない分野での活動ですが、体調に気を付け家族のサポートをもらいながら、続けていけたらと思っています。

<自己紹介の追加を少し>・・・社会に出てからの経験を。

民間のメーカーに就職し定年まで勤める。(主に情報通信関係部門の製品/システム関係の仕事、新製品の拡販等を経験する)

工場勤務 ⇒ 本社営業部門 ⇒ 工場勤務 ⇒ 本社営業部門 ⇒ 子会社へ出向

(職種は、技術設計部門、営業、生産管理、品質保証、年齢と共に総務、人事、経理 等、先輩、同僚、部下の力をいただきながら経験を積みさせてもらう)

⇒第 2~4 の人生(福祉関係少々、地上波 TV デジタル化関係を約 10 年・・・)

・・・20歳代に担当した、テレビ局アンテナシステム設計部門での話を・・・

前回のオリンピックを含め、テレビ放送を全国にサービスする時代にぶち当たりました。継続して日本中にテレビ局を建設する時代になり、主に民間放送会社を担当、NHKを含めて、置局計画/調査、設計、建設、諸官庁の監査 等々 携わった施設は多分150局以上と思います。(打ち合わせ/調査/設計/顧客との調整/工事中の確認/諸々で出張が多く、席の温まらない20歳代。カバンに時刻表を入れて移動していたことを思い出す)

[トピックスを1例] 約55年前(1966年S41年)、ニュージーランドNZBC(日本のNHKのような位置づけ)のウェリントンTV局(WNTV1)の120M鉄塔を含むアンテナシステム(規模は違うが東京タワー並みの役割)を会社が受注。最後の締めの仕事のお助けマンとして突然出張命令。パスポート東京都庁で8/9受領、3か月ビザを8/9即日承認、羽田8/10出発(羽田でパスポート、ビザ、航空券等受け取り)、DC-8(空の貴婦人と言われた120人乗りの飛行機。当時旅客機で一番大きかったはず)で、三省堂の英和/和英辞典片手に、香港/

オーストラリア経由でNZに出発。多分指示をもらってから2週間ぐらいか?(パスポート申請、ビザ、予防注射等々 旅行社もあの時代良く手続きが出来たと思う) 2か月くらいの予定が4か月になった(3か月のビザが切れ出国時通関でもめたがセーフ)

・アクシデント: トランジットの香港で乗り継ぎ便飛ばず、翌日になる。(香港で迷子? 現地と日本で心配していたと後での話)

・時代の背景: 外貨持ち出し制限 確かUS1000ドル ・時差2H ・電話は4時間待位?

・現地通貨 ポンド、シリング、ペンスの12進法(1ポンドは20シリング、2シリングは1フローリン、1シリングは12ペンス) 買い物のおつりは、支払金額=物の値段+おつりの紙幣とコインを足していく。引き算はしなかった)

・当時車は右通行 速度マイル表示 モーターウェイでは速度制限表示無しの所も

・ちなみに往復の飛行機代は当時の380,000円 単純貨幣価値だと現在の2~3百万円か?

・往路は、羽田/香港(1泊)/ブリスベン/シドニー/ウェリントンと先輩社員と二人で。復路は一人で帰国、クリスマス休暇で帰国便がなかなかとれず結果、ウェリントン(国内線)/オークランド(1泊し国際線)/ダーウィン/香港(1泊)/12月21日飛行機から富士山が見えホッとし無事羽田着、雪の正月を日本で迎えられた。フィジー/ハワイのビザを現地で取得したが無駄になる) 現在の社会インフラと比較すると、雲泥の差が有ることを改めて認識しています。



ぼぼんたトピック④

キクちゃん

2021年6月16日(水)から、ぼぼんたの本の貸し出しが再開しました。2020年12月から6ヶ月、再開の機会を探りながらコロナ感染症への恐怖で臆病になっていました。医療センターのご配慮で、(貸し出し担当)ぼぼんた9人にワクチン接種を受けました。さて、本の貸し出し先は、4西 4東 4南 5西 5南 母性 肢体 の7ヶ所です。今日の貸し出し担当者は5人です。1人で2か所の人もいて、本選びや手続きが大変です。子ども達に合わせた本を30冊~40冊選び、

貸し出し手続きをしてから、1冊ずつ消毒して消毒済のクリアケースに詰め込みます。回収した本は手続きをしてから、消毒して本だなとブックラックに戻します。

1病棟入室1人 会話なし 滞在時間10分以内 と決まっていますので、久しぶりの病棟内の様子は、貸し出し後ミーティングで知る事ができました。どの病棟も歓迎されて待っていてくれたんだなーと胸が熱くなりました。今回から肢体不自由児施設も新たに貸し出しする事となり、加藤コーディネーターの同行をお願いしました。設置場所や回収の仕方、リクエストの内容等を確認しました。

毎年4月にはリーダーの交代があるのだが、コロナ感染症で活動が中止になってからは皆に会う機会がなく、6月にずれ込んでの交代になりました。

今年のリーダーはZOOMミーティングを主催してくれるので、久しぶりにぼぼんたメンバーの顔が見られ、声が聞こえて嬉しい。

第2第4水曜日が本の貸し出しなので、ZOOMミーティングは第1水曜日 10:00～にしました。だが、伝える事が多くて40分の無料時間には収まらないので、2回に増やして行われました。7月のミーティングには、加藤コーディネーターと三木代表が参加してくれて、センターの現状を伝えてくれました。コロナ感染症はなかなか収まりそうもないが、活動に参加できない人もオンラインで繋がっている意識が大切だと思います。

ボランティアコーディネーターから

加藤 悦興

「夏飾り」のボランティア活動を通して、あらためてボランティア活動の大切さと、ボランティアさんの自主性・責任感・心の豊かさ、そしてボランティアコーディネーターの醍醐味を感じました。

お子さんやご家族、また職員などから希望を頂き、それを叶えたいという想いを形にしていくボランティア活動は、自主性がとても強いものです。今回の夏飾りは、林さんが発起人ですが、常々気にかけておられたことを、お子さんの言葉に背中を押されて始めています。オレンジクラブは28のグループ活動があります。今回縫製グループやきょうだい預かりや手芸の皆さんたち、多くの方が活動に参加されました。はじめに想像したものより何倍もの規模の夏飾りになりました。これこそが、ボランティアの持つ力だと思います。人と人の繋がりが、活動している人の中でも大きくなり、活動する人とそれを受け取る人の中でも繋がり、人の心を豊かにするものと感じています。

「あ、魚がいっぱい」「夏の風景だね」と上を見上げて会話する家族や、「うさぎさん!」「そうだね可愛いね」とお子さんとお母さん。「こんなにだれが作ったんだろうね?」とも。嬉しい会話です。アートディスプレイの皆さんも、通路にヨシタケシンスケさんの涼しげなイラストを飾り、各フロアにも夏バージョンの絵を飾っています。

コロナ禍が長く続いています。アートがもたらす力を皆さんどうか受け取り感じ取ってください。総合待合は、下ばかり見て歩いていると「夏飾り」に気が付かないかもしれません。少し気にかけて、泳ぐ魚と輝くひまわりの花を楽しんでみて下さい。

お知らせ 9月13日(月) ボランティア調整会議

10月4日(月) ボランティア研修会(予定)

